

# 宮城山岳通信第11号

## 目次

巻頭言	富塚和衛・・・1～2頁
定例役員会報告	事務局・・・3～4頁
宮城支部山行報告	
☆第5回親子登山教室（薬菜山）（公益事業山行）	佐藤昭次郎・・・4頁
☆第5回登山教室（三方倉山）（公益事業山行）	佐藤昭次郎・・・5頁
☆初冬山行（白沢五山）（共益事業山行）	太田 正・・・5～6頁
山行以外の宮城支部行事開催報告	
☆宮城支部晩餐会（レストラン・シェルブール仙台）	木皿 謙・・・6頁
宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告	
☆日本山岳会全国支部懇談会参加報告	富塚和衛・・・7頁
平成30年1月～平成30年3月の行事予定	事務局・・・7～8頁
編集後記	遠藤銀朗・・・8頁

### 巻頭言（風物詩に思いを馳せる）

支部長 富塚和衛

源頭部を泉ヶ岳に持つ七北田川が、我が家の近くを流れている。11月になると川に、百羽を越える白鳥が姿を見せ冬を過ごす。朝には採餌場に飛び立ち、夕には水面で羽を休める。毎日繰り返される光景だ。白鳥の群れをよく見ると親子連れの姿も。真っ白な羽の番と灰色の羽の子供がだいたい二羽、身体の大きさは親鳥と同じ程。仲睦ましく水面を泳ぎ、空を飛ぶ姿は微笑ましい。冬の風物詩だ。この時期になると、仙台の北西方向で裾野を広げる泉ヶ岳も冬の佇まいを始める。日増しに山頂部から雪化粧が厚くなってくる。

岳人の先人に仙台市名誉市民でもあり、日本山岳会の4代、7代の会長を務めた榎有恒がいる。榎は「私の山旅」の著書に「泉ヶ岳のこと」と題した文章を残している。『・・・仙台での山歩きの思い出に残る一つは泉ヶ岳登山であった』と。小学校時代の榎は、四季を問わず野山を歩き回り、山の楽しさを覚えたようだ。他の著書には『私にとっては、仙台は山川の心のふるさとなのです。』とも記している。将にアイガー東山稜初登頂、マナスル初登頂の成功の源は、仙台周辺の野山にあったのだ。

榎が小学時代を過ごしたのは、1900年代初頭。それから100年経つ今も、泉ヶ岳は仙台市民のリекреーションの場となっている。春から秋にかけては、仙台市内の小学5年生が「野外

活動」の一環として泉ヶ岳登山を行っている。機会がありここ数年、数校から依頼を受けボランティアとして登山に参加している。一緒に登山は、子供達の純真な所作が垣間見られ楽しい。グループ分けされた子供達が協力しながら頂上を目指す様は実に健気だ。声を掛け合ったり、歌を歌ったり、ザックを背負ってあげたりと。山頂に辿り着いた時の達成感を身体いっぱい表現している子供達を見ると心が洗われる感じさえする。

毎年行われる小学5年生の「泉ヶ岳登山」も、ある意味、泉ヶ岳の風物詩であるとも言えるのではないだろうか。泉ヶ岳登山を体験した子供達から第2、第3の槇有恒が出てくる事に思いを馳せ、七北田川の河川敷から白鳥の鳴き声を聞きつつ泉ヶ岳を遠望する。

## 定例役員会議事録

### ☆平成 29 年 10 月定例役員会議事録

日 時：10 月 10 日(火)18:30~20:30  
場 所：仙台市ソバセンター 5F 会議室  
出席者：富塚（和）支部長、佐藤（昭）、草野、柴崎、富塚（真）、鈴木  
計 6 名

#### 《報告事項》

##### (1) 総務・財務委員会からの報告

- ①全国支部合同会議報告について
  - ・広島支部の事故報告(案)
  - ・会員個人山行の本部へ登山届出の履行
- ②山岳関係機関からの情報受理状況
  - ・各支部「山の日」イベント取纏め結果
  - ・勧誘チラシ作成（秋田支部を参考に）

##### (2) 山行集会委員会からの報告

- ①第 5 回親子登山教室の実施結果
- ②第 5 回登山教室実施計画

##### (3) 会報編集出版委員会からの報告

- ①宮城山岳通信第 10 号発行

#### 《審議事項》

- (1) 2021 年「山の日記念事業」の本部から打診について
  - ・役員会出席者少数のため、次回役員会で再審議することとした。
- (2) 秋田、岩手、宮城支部合同山行の実施計画について
  - ・実施については、問題ないが役員会の出席者が少数のため、次回役員会で再審議することとした。

(事務局報告)

### ☆平成 29 年 11 月定例役員会議事録

日 時：11 月 16 日(木)18:30~20:30  
場 所：仙台市ソバセンター 5F 会議室  
出席者：富塚（和）支部長、遠藤副支部

長、佐藤、草野、三宅、柴崎、  
鳥田、富塚（真）、千葉、松田  
計 10 名

#### 《報告事項》

##### (1) 総務・財務委員会からの報告

- ①第 33 回全国支部長会議報告（再）
  - ・会員個人山行の本部へ登山届出履行
- ②山岳関係機関からの情報受理状況
  - ・支部長代表者会議の開催通知（柴崎役員が代表者として出席）

##### (2) 山行集会委員会からの報告

- ①第 5 回登山教室実施結果
- ②12 月初冬山行（白沢 5 山）実施計画

##### (3) 創立 60 周年記念事業特別委員会からの報告

- ①玉山記念登山の準備進捗状況  
既に役員会において承認された海外記念登山（台湾・玉山）については、中華民国山岳協会から支援をいただくことについて了解を得ており、来年 10 月実施の方向で打ち合わせている。
- ②創立 60 周年記念事業全体の計画について

12 月 13 日（水）に特別委員会を開催し、創立 60 周年記念事業全体の大枠を固め、来年 1 月開催の定例役員会に報告し承認を得ることとする。

##### (4) 他委員会等からの報告

- ①秋田岩手宮城支部合同山行実施計画
  - ・2018, 6, 17（日）、栗駒山での実施を役員会で承認

#### 《審議事項》

- (1) 2021 年度「山の日記念事業」宮城県での開催の本部からの打診について

前向きに検討も、詳細情報を収集し判断することとした。

- (2) 安全登山講習会の本部からの打診

について

広島支部の事故に伴う本部事業の仙台市での開催の判断は持ち越した。

(3) 仙台マチノワブース (2018 年 2 月 24-25 日開催) の出展について

仙台市サポートセンターから出展の打診あったことについて協議し、宮城支部から出展することを役員会として承認した。

(4) 蔵王の山岳トイレ設置について連名要望についての意向打診

要望内容の一部に了承できない部分があることを伝え、相手の判断を待つこと

とした。

(5) 新支部友会会員入会承認について  
新規支部友会員 4 名について入会を役員会として承認した。

《その他》

- (1) 公益・共益事業の区分について
- (2) 支部晚餐会&オークション開催について
- (3) 宮城支部の勧誘「チラシ」の作成について
- (4) 今後の定例役員会開催日について  
(事務局報告)

## 宮城支部山行報告

### ☆第 5 回親子登山教室 (葉菜山) (公益事業山行)

- ・実施日：平成 29 年 10 月 8 日(日)
- ・山 域：加美町・葉菜山(553m)
- ・コース：やくらいガーデン登山口→南峰→姥地蔵→葉菜山(553m)→姥地蔵→やくらいガーデン登山口
- ・参加者：  
(応募参加親子) 仙台市高橋秀一ご家族、大崎市千葉栄寿ご家族 計 10 名参加  
(会員) 富塚和衛、富塚真味子、千葉正道、松田照夫、三宅泰、佐藤昭次郎  
(支部友) 白田昭一、針生紀子  
(計 18 名)
- ・報告者：佐藤昭次郎

第 4 回までの親子登山教室は仙台市内の山域を対象とする催行に限られた事を反省し、今回は対象地域を大崎地方とし対象山を葉菜山として企画した。それに伴い大崎市および加美町の教育委員会の後援を得て募集案内をこれまでの新聞から直接学校等

へ案内状を送付する態様をとった。結果は、大崎市から 1 家族と仙台市からの 1 家族の 2 家族でご両親と祖父母と小学生 4 名の 10 名あった。

当日は穏やかな秋晴れで行楽日和の中、集合場所に参加メンバーが揃い、芋煮会会場となる場所にて開催趣旨を含むお話を支部長より、この時期の注意点として、蛇、蜂、熊への対応や、子供の行動パターンの特徴から目の届く範囲を守って頂くこと等を佐藤(昭)が講義した後、9 時 45 分表コース登山口を出発。

特段問題となるコースではないので昼食時間に合わせて下山いただくように佐藤(昭)からお願いし、富塚真味子会員とげ山後の芋煮会を準備、もう既に真味子会の自宅で具材は処理していただいたので煮るだけ、今回の材料はサトイモ、ネギ等支部長が畑を借りて栽培したものと言う、文句なしの逸品である。

定刻通り 12 時半に小学の男子が芋煮の出来上がりとほぼ同時に下山してきた。順に円座となり、芋煮を食べながら自己紹介と感想などをお聞きし、楽しく秋の親子登山教室と芋煮会を終了した。

## ☆第5回登山教室(三方倉山)

### (公益事業山行)

- ・実施日：平成29年11月5日(日)
- ・山域：仙台市太白区二口 三方倉山(971m)
- ・コース：秋保ビジターセンター→三方倉山登山口→ブナ平コース→三方倉山(971m)→シロヤシオコース→三方倉山登山口→秋保ビジターセンター
- ・参加者：  
(公募参加者) 永野仁・孝子、山口千賀子、土海隆義、植松恵美、相原政稔、佐々木祐一  
(会員および準会員) 冨塚和衛、太田正、草野洋一、中條俊一、佐藤昭次郎  
(会友) 津田久美子、白田昭一、針生紀子(計15名)
- ・報告者：佐藤昭次郎

当初は降雪前に通行可能な二口林道を利用し糸岳に登山することを企画したが、この登山教室開催日の当日より本格工事の大型機械搬入のため一般車両はキャンプ場よりは入れないことが判明。この情報が入ったのは10月30日、今回の登山教室は公募山行で既に参加者が決まっていたので、すぐ参加者にその件と三方倉山へ計画変更の

## ☆初冬山行(白沢五山)

### (共益事業山行)

- ・実施日：平成29年12月10日(日)
- ・山域：仙台市青葉区上愛子 白沢五山
- ・コース：白沢峠→二輪山(369m)→五郎山(370m)→前山・函倉山分岐→三方別れ→函倉山(349,5m)→前山(346m)→岩垂山(348m)→小塚山(345m)→大森山(364m)

旨を伝え、新たな参加を確認し催行した。全員秋保ビジターセンターに集合の後、対象山域が変更になったいきさつを報告し、支部長あいさつと注意点を周知して軽く体をほぐす。この辺り紅葉の盛りは過ぎつつも溪流沿いは十分に楽しめること等の秋山の楽しみ方についても伝達。

8時30分ここからキャンプ場駐車場經由ブナ平コースへと出発、散り始めた木々の紅葉で明るくなった登山道を落ち葉を踏みながら進む、キノコを見つけお土産にするなど、この時期ならではの山行であった。途中ブナの大木や石垣岩(柱状節理断面岩)などで写真を撮りながら11時過ぎ山頂着、早いが昼食とした。日没の早い時期なので早めに休憩を切上げて下山。

下りはシロヤシオコースとし、本来計画の糸岳と大東岳を正面に見ながら慎重に下りる。シロヤシオコースの入口から今回は姉滝を回るコースとしたので、溪流と紅葉を十分に味わいながら、13時30分ビジターセンター駐車場へ着いた。ここで解散であるが、閉会の前に中條・太田両会員から安全登山の基本・秋山登山の特徴である時短対策や装備に関する講義を行って登山教室として時間を盛り込み、その後支部長から参加者に宮城支部の活動内容の紹介と日本山岳会入会を勧誘する案内を行って現地散会とした。

- ・参加者：  
(支部会員) 草野洋一、三宅泰、遠藤銀朗、中條俊一、千葉正道、太田正  
(支部友会) 村上敏郎、津久井宏、白田昭一、針生紀子、土海孝義  
(一般参加者) 多田夫妻(計13名)

・報告者： 太田 正

白沢五山は、当会会員柴崎徹氏著「宮城の名山」(平成4年発行)によると、白沢南側丘陵上にある五つ森の名称で紹介されて

いる。前山以外には道らしい道はなく、沢を利用して奥に入り藪を漕いで目指す山に登ったと記されているが、25年経った近年は中高年登山者増加で里山志向が高まり、ネットはもちろんいろいろな資料が出ており、登山道はよく整備され、枝道はいたるところにあり迷ってしまいそうだが、目印が要所要所についている。

白沢峠（戸神山登山口市水道局入口ゲート）8時30分発。空の具合は出発時点では曇りだったが、10時頃から晴れてきて少し寒いが小春日和のような穏やかな天気となる。最初に五山以外の二輪山に登り、ついでもっとも展望が良い五郎山に登頂する。ここからは空気が澄んでいることから、泉ヶ岳方面とともに遠く牡鹿半島まで眺望できた。五山最初の函倉山に登る途中にはムラサキシキブの紫の実だけが鮮やかな色で残っている。2座目の前山は雑木林の中でここが頂上かと標識がなければ通り過ぎるような場所である。三方別れから縦走路に

戻り岩垂山でちょうど12時となり昼食を取る。岩垂山の標識を見るとひらがなが振ってあり（いわだらやま）と書いてある。先ほど通過してきた二輪山は二ノ輪山、函倉山は箱ノ倉山とも、そして次に登る小塚山は小森山とそれぞれ資料によって呼び名が違っている。再び縦走路に戻り小塚山（標識が345mと350m二つある）に登り少休息後、五山中もっとも急な斜面を下る。道が濡れていたら登り降りには相当難儀を要すると思われる。最後に大森山に登頂して皆さんお疲れ様でしたと声を掛け合った。後は下るだけでイノシシ除けのゲートがある大針登山口には14:時00分到着。いずれの山も高さはほとんど変わらないことでアップダウンは少なく、途中の雑木林の落葉した木立の空間が気持ちよく、登山道の落ち葉の絨毯の上を音をたてながら歩行するのはこの時期ならではと、初冬の山を全員で満喫して帰路に着いた。

## 山行以外の宮城支部行事開催報告

### ☆2017年JAC宮城支部 年次晩餐

報告者：木皿 謙

今年の年次晩餐会は12月17日（日曜日）光のページェントで賑う一番町はスマイルホテルの3階の「シェルブール仙台」で今年一番の冷え込みの午後6時から開かれました。参加者は17名、富塚支部長の司会進行で始まりました。来年は我が支部発足60周年、記念の山行を台湾で行いたい旨の挨拶があり続いて木皿会員の発声で声高らかに乾杯、楽しい話の時間が始まりました。今年は参加会

員全員から今年一年を振り返っての一言があり、皆それぞれ思い残したこと、残念だったことなど色んな発言が相次ぎましたが、十分満足だった発言は小生には聞こえなかったような気がしました。それでも山はともかく温泉なら自信ありの発言には非常に納得させられました。

続いてこれも例年通りのオークション、今年は若々しい永浜会員の進行でスムーズに且つスピーディに手際よく運ばれました。今年の実績（宮城支部を支える財源の一つ）は合計金額26,000円。少し寂しい気もしましたが、各会員の心の籠った出品が多かったと思います。かくして今年最後の支部行事は無事終了お疲れさまでした。

## 宮城支部以外の日本山岳会関係行事参加報告

### ☆第33回全国支部懇談会参加報告

報告者：支部長 富塚和衛

平成29年10月13日(金)～14日(土)の2日間、第33回全国支部懇談会全国支部懇談会が茨城県つくば市の「つくばグランドホテル」を会場に行われ、これに参加したので報告する。26支部から約140名が参加、宮城支部からの参加は1名。

#### 【1日目】

・開会式 茨木支部長挨拶

・講演会 3題

#### ①「古代の山の信仰：筑波山を中心として」

講師 郷土史家・元筑波町長

井坂 敦美氏

#### ②「わが国の火山の現状：富士山も噴火するか」

講師 東京大学名誉教授・山梨県富士山科学研究所長

藤井 敏嗣氏

#### ③「100年目の剣岳三角点設置」

講師 茨木支部会員・元国土地理院職員

・懇親会

稀勢里の相撲甚句(牛久市)、ガマの油口上の演技

#### 【2日目】

・交流山行

#### ①Aコース(参加)

御幸ヶ原⇒白雲橋コース(約5時間)

#### ②Bコース

白雲橋⇒御幸ヶ原コース(約5時間)

#### ③Cコース

自然研究路一周コース(約1時間)

#### ④Dコース

国土地理院、地質標本館見学コース

《交流山行後解散》

## 日本山岳会宮城支部の平成30年1月～平成30年3月の行事予定

### ◎平成30年1月

☆1月1日(月)

元旦登山(泉ヶ岳)非公式行事

☆1月17日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆1月20日(土)

マチノワブース出展説明会

(仙台市民サポートセンター)

☆1月21日(日)

冬山山行(山域未定)

### ◎平成30年2月

☆2月11日(日)

厳冬期山行(山域未定)

☆2月22日(木)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆2月24日(土)

マチノワブース出展

(仙台市民サポートセンター)

### ◎平成30年3月

☆3月21日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆3月25日(日)

早春山行(山域未定)

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。

宮城山岳通信第 11 号を日本山岳会宮城支部の会員と会友の皆様にお届けいたします。今号は、これまでの号に比べて幾分ゆったりとした誌面になりました。このように 3 ヶ月に一回定期的に発行する日本山岳会宮城支部のニュースレターとして、宮城支部の行事内容と活動内容を宮城山岳通信という形で詳しく支部の皆様にお伝えすることは必要なことだと思っております。支部関係者のご理解とご協力、そして会報編集出版委員会の委員の皆さんのご努力によってそれができていることに深く感謝いたします。

新たに迎えた 2018 年は、宮城支部創立 60 周年の記念の年となります。したがって、今年は宮城支部の関係者の皆様にとって特別に思い出に残る多くの山行が待っていると思います。それらの山行を含め、このニュースレターでは宮城支部の今後の行事予定やそれらの実施結果を可能な限り詳しく皆さんにお伝えしてまいりたいと考えております。引き続き今年も、宮城山岳通信の発行に対する皆様のご協力とご支援を宜しくお願いいたします。

会報編集出版委員長 遠藤銀朗

### 宮城山岳通信

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2018 年 1 月 10 日、 発行人 富塚和衛

編集出版委員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、中條俊一、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821 仙台市宮城野区岩切畑中 9-12 Tel・Fax 022-255-7398